

第1学年4組 音楽科学習指導案

平成26年11月19日（水）第5校時

授業者 久喜市立栗橋東中学校 浅見 純也

1 題材名 日本音楽の響き 「和楽器（箏）を演奏しよう」

2 題材について

（1）生徒の実態

全体的に明るく、活発で笑顔の絶えない学級である。積極的な態度で学習に取り組んでおり、特に音楽活動に対しては、他の教科以上に意欲的である。先日、音楽に関するアンケートを実施したところ、約8割の生徒が「音楽が好きになった」や「音楽のおもしろさを感じた」と回答した。中学校に入学し約半年、先日の合唱コンクールでは一つの作品を歌い上げる難しさや奥深さ、感動を味わうことを体験し、この半年で音楽への考えが大きく変化した。こうした現状を踏まえて、和楽器の活動を通して生徒達が演奏活動に対して「おもしろい」や「楽しい」、「音楽がもっと好きになった」と思えるような授業の展開を工夫しなければならない。様々な「きっかけ」から新しい音楽が生み出せるように、適切な助言や支援を工夫し、生徒一人一人に音楽活動の喜びを実感させたい。

（2）題材設定の意図

本題材は、「A表現（2）ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。」「イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。」に即して進めていく。中学校学習指導要領音楽科の〔第1学年〕の目標の中に、「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。」ことが記述されている。音楽の学習では、次の2つの「楽しさ」があると考ええる。まず、1つめは、「楽しそう」「面白そう」などの興味・関心である。授業の雰囲気が楽しいというものでもあり、活動のきっかけ作りである。次に、音楽の本質に触れる「楽しさ」である。ここでの楽しさには、経験によって違いがあるが、積極的に取り組む授業を通して得るものである。受け身の感覚ではなく、自らの力で感じ取ることが、その後の音楽活動への興味・関心を導くものである。

この2つの楽しさは音楽の学習活動で大切なものである。楽しく音楽とかかわる学習活動によって自分の持っている音楽の感性を生み出していきたい。

また、生徒が音や音楽を主体的にとらえ、それぞれの特徴や雰囲気を感受することを積み重ねることで、感性が養われていくと考える。さらに、「表現する能力」を高めるためには、音楽表現の豊かさや美しさを知覚・感受し、それらを活用していくことが重要である。

本題材では、初めて日本古来の楽器に触れる生徒達に、箏の音色や基礎的な奏法、平調子による旋律・構成に関心をもたせ、主体的な学習に取り組ませたい。また、箏の美しい音色を表現するために必要な基礎的な奏法を身に付けさせたい。教師の模範演奏や視聴覚教材を参考にして、生徒同士で表現の意図を互いに確認し合う話し合いの場面を設けて音楽表現を練り上げていく。

（3）学校研修課題とのかかわり

研究課題 「学力向上を目指した教育活動の実践」

～学ぶ意欲を高める総合的な取り組み～

○教科指導の重点

- ①「できた」「楽しかった」など達成感を味わわせるために、生徒の実態に即した題材、興味をもてる題材を設定し、曲種に応じた発声や奏法を身に付け、音楽表現をする力を育てる。
- ②言語活動の充実に努め、楽曲から聴き取ったことや感じたことを言葉に表して伝える力を育成する。
- ③様々な体験活動を通じて心豊かに音楽のよさや美しさを感じ取り、音楽に興味・関心をもたせ、音楽を通した自己表現能力の育成を図る。

○指導の重点を達成するための手だて

- ・歌唱や器楽、創作などの表現活動において、全体練習やグループ練習、パート練習、ペア練習、個人練習などに取り組む前に、生徒に学習活動のねらいや練習方法を具体的に伝える。
(生徒が「何を」「どのように」「どこまで」できるようにすればよいのかを事前に理解させること)
- ・鑑賞活動において、生徒が楽曲を鑑賞する際の「鑑賞の観点」を具体的に示す。
- ・生徒一人一人の学習状況の把握に努め、ねらいを達成することができるように適宜指導・助言を与える。

心と体が大きく成長するこの時期に、音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにする。そして、豊かな情操を養うことで、生涯にわたって音楽に親しみ、潤いのある生活を送ることができる考える。

音楽の表現や感受は、人によって千差万別であり、正解はない。音楽表現をするための技能を身に付けて、学習に主体的に取り組ませることで、創意工夫を生かした演奏ができる。授業の中で「よさを認める」ことに重点を置いた相互評価や自己評価を積み重ねていくことで、やりがい醸成し、かつ音楽的な感性を豊かにしていくことができる考える。

3 題材の目標

- (1) 箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成に関心をもち、箏の基礎的な奏法などを身に付けて演奏する学習に主体的に取り組む。
- (2) 箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、箏の特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するのか思いや意図をもって、表現を工夫する。
- (3) 箏の特徴をとらえた音楽表現をするために、基礎的な奏法などを身に付けて演奏する。

4 教材について

○「さくら さくら」

日本古謡

日本人であれば誰でも親しむ美しい曲である。箏では、入門編の曲として演奏される。箏の最も基本的な調弦法である平調子で、簡単に弾くことができる。

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽ア 曲想を感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。
	器楽イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。

〔共通事項〕	ア	音色	旋律
	イ	拍 拍子 間	音階
具体的な学習活動		・ 箏の構造、準備の仕方、基礎的な奏法をとらえ、主体的に学習に取り組む。 ・ 箏の音色を感じ取り、柱を立てて平調子の音階に調弦する。 ・ 箏の特徴をとらえた音楽表現をするために必要な基礎的な奏法を身に付けて演奏する。	

6 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①箏の音色や奏法全体に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②箏の音色や奏法、平調子による旋律・構成などの特徴に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	①箏の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴をとらえた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 ②箏の音色や奏法などの音楽的な特徴を感じ取り、よさや美しさを味わおうとしている。	○箏の特徴をとらえた音楽表現をするために必要な箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。
1	①		○
2		①	
3	②	②	

7 指導と評価の計画（全3時間）

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
〈第1次〉箏の基礎的な奏法を身に付けよう。		
1 本 時	○箏の基礎的な奏法の習得 ・ 箏の持ち方、油単のたたみ方、箏の構造、絃の名前、柱の立て方・持ち方、爪のはめ方、平調子の取り方、座り方、親指による奏法 ・ 「さくら さくら」（前半）を演奏する。 ・ 左手の奏法、押し手の奏法	○一つ一つのことを丁寧に確認し、順序立てを適確に行う。 ○左手の位置、強押しと弱押しの違いや具体的な方法を分かりやすく提示する。 ☆箏の音色や奏法全体に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 （関心・意欲・態度① 活動観察 自己評価カード）

〈第2次〉 箏の音色や奏法を生かして演奏しよう。		
2	○箏の基礎的な奏法の習得 ・「さくら さくら」（後半）を演奏する。 ・かき爪の奏法、合せ爪の奏法 ・ペア学習を通して、どのように演奏するのかを互いに助言しながら、箏の基礎的な奏法の定着を深める。	○基礎的な奏法について、既習事項に新しく学んだ奏法を加え、それらを意識しながら演奏するよう助言する。 ☆箏の特徴をとらえた音楽表現をするために必要な箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。 （技能 活動観察） ○ペアのグループで互いに助言し、どうすればよりよい演奏になるのか、話し合いながら練習を進める。 ☆箏の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、箏の特徴をとらえた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 （創意工夫① 活動観察 自己評価カード）
3	○箏の学習のまとめ ・学習事項を生かしてグループで演奏を発表する。	○これまでに学習した内容を知覚・感受し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取って演奏したり、聴いたりすることができるようにする。 ☆箏の特徴に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 （関心・意欲・態度② 演奏発表） ☆箏の音色や奏法などの音楽的な特徴を感じ取り、よさや美しさを味わおうとしている。 （創意工夫② 演奏発表 自己評価カード）

8 本時の学習指導（第1次 1／3時）

（1）本時の目標

- ・箏の音色や奏法全体に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組む。
- ・箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏する。

（2）本時の展開

学習内容	主な学習活動	○指導上の留意点 △研究課題との関わり ☆評価基準と評価方法
1 「めあて」の設定	箏の弾き方を覚え、前半部分を演奏できるようにしよう。	
2 箏の基礎的な奏法の習得（導入15分）		○理解しやすいような「めあて」を設定し、本時の目標を明確にする。 ○教科書を使い箏の各部分の名称や弾き方等を口頭やDVDを使い分かりやすくゆっくりから進める。【△－①】

・ペア学習 「さくら さくら」（前半）を演奏する。 【七七八 七七八 七八九八七八七六 五四五六五四三】 （展開 30 分）	○二人組ペアで相互評価をしながら、主体的に練習するように促す。 ○間違った奏法や練習が滞っているグループに、具体的な指導助言を行う。 ☆箏の音色や奏法全体に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 （関心・意欲・態度① 活動観察 演奏発表 自己評価カード） 《Bと判断する具体的な状況》 基礎的な奏法で「さくらさくら」の前半部分を演奏しようとしている。 《Aと判断する具体的な状況》 基礎的な奏法で「さくらさくら」の前半部分を演奏し、ペアや他の生徒に奏法や演奏のアドバイスすることができる。 《努力を要する生徒（C）への支援例》 右手の使い方や姿勢、爪の角度など、どの部分でつまづいているのかをよく観察して助言するとともに、本人が難しいと感じている部分を繰り返し練習するように助言する。 ○二人組ペアで順番を決め、前半と後半で交代して演奏する。 ○身に付けた基礎的な奏法を十分に生かして演奏するように声をかける。 ☆箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。（技能 活動観察） 《Bと判断する具体的な状況》 基礎的な奏法を身に付け「さくらさくら」の前半部分を演奏することができる。 《Aと判断する具体的な状況》 基礎的な奏法やリズム・速度に気をつけて「さくらさくら」の前半部分を演奏することができる。 《努力を要する生徒（C）への支援例》 「さくらさくら」の前半部分を演奏できないので、本人のできる速度を設定し、（A）の評価がついた生徒から教えてもらいながら少しでもできるように指導する。
3 まとめ （まとめ 5 分）	○本時の学習の成果や課題について、自己評価カードに記入する。

9 備考

在籍生徒数 男子 14 名 女子 20 名 計 34 名